

通常の学級の担任に対する、障害のある子どもの 教育的支援についての理解・啓発

兵庫県立特別支援教育センター
指導主事 勝山 護

1 研究の趣旨及び目的

昨年度から引き続き、県内小中学校の通常の学級の担任に向けた特別支援教育や発達障害等の理解・啓発を目的とし、教職員の特別支援教育に関する意識やニーズを把握することで、当センターの研修や教職員の指導・支援の充実を図ることを目指し、取り組むこととした。

2 方 法

- (1)「小学校・中学校教職員のための特別支援教育ハンドブック」(以下、「ハンドブック」という。)の活用に関する調査について

目的：平成 30 年度に当センターで作成したハンドブックの活用状況を、通常の学級担任に調査することで、教職員の意識やニーズを把握する。

方法：①質問紙調査、②聞き取り調査

- (2) エリアコーディネーター（以下、「Aco」という。）と連携した実践について

目的：通常の学級担任が発達障害等の可能性のある児童への指導・支援について、Aco と連携した実践事例を検証することで成果と課題を抽出する。

対象：特別支援学校の特別支援教育コーディネーター（以下、「Co」という。）及び各 Aco

方法：聞き取り調査

3 研究の結果と考察

ハンドブックの活用状況に関する調査の結果から、県内小中学校の教職員が日々悩みながら児童生徒の指導・支援にあたっている姿が見て取れる。こうした中、担任は発達障害の特性理解や個別の指導計画の作成など、児童生徒の指導・支援に活かすために、ハンドブックを手の届くところにおいて活用していることがわかった。特別支援教育の基礎的事項や指導・支援の基本などを掲載し、関連サイトを各ページに掲載したことで、実際に手に取りやすく、幅広く活用できるツールとなったと考える。

また、通常の学級担任を Aco や Co が連携してサポートしていくことは、一人で抱え込んでいる担任や教職員にとって心強く、発達障害等のある児童生徒への理解を進めたり、指導・支援を充実させたりする上で、意義のある取組である。個と集団に配慮した授業の在り方や学級経営など特別支援教育の視点をもった Aco と一緒に支援を考えることで、当該校の教職員の指導力向上と、より効果的な校内支援体制づくりにもつながると考える。